

たくさんの笑顔で地域をつつみます。

広報 せきあい

通巻 4 号

平成29年

夏

発行：社会医療法人 関愛会

特集

充実した体制が叶える安心と信頼

介護老人保健施設 やすらぎ苑

好評
連載

診療所発、つれづれエッセイ「きよかわの風」
松島ドクター責任編集「関百景」/
しごと図鑑／私もせきあい



【COVER】やすらぎ苑(左から)志村華純、大鶴藍、首藤真希子

充実した体制が叶える安心と信頼

介護老人保健施設 やすらぎ苑



平成29年(2017年)4月から「関愛会」の仲間入りをした、大分市松岡の『やすらぎ苑』。設立から22年で培ってきた信頼と実績で多くの利用者さまやご家族に喜ばれてきましたが、今回「関愛会」に加わったことでさらなる飛躍が期待されます。今回は足立施設長をはじめ4名の職員の方に、『やすらぎ苑』のこれまでの歩みと未来についてお話をうかがいました。



野口——本日は『やすらぎ苑』の職員を代表して、4人の方にお集まりいただきました。『やすらぎ苑』は、この4月から「社会医療法人 関愛会」に加わって新しい一歩を踏み出したわけですが、今までのことやこれからのことなど、それぞれの立場からお話をうかがいたいと思います。進行は私、事務長の野口が行いますので、どうぞよろしくお願いいたします。まず最初に、施設全体の説明をしていただきますでしょうか。では施設長の足立先生、お願いします。

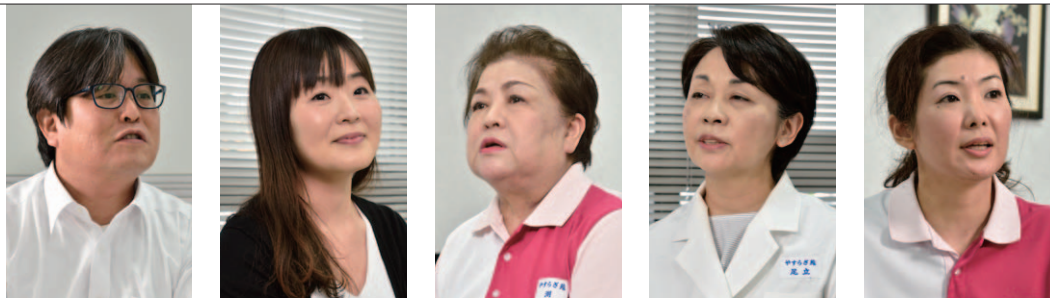
足立——『やすらぎ苑』は、平成7年（1995年）に開設された介護老人

保健施設（老健）です。開設当時、介護保険制度はまだスタートしていませんでしたが、22年という歴史の中で、その時々に必要なとされる設備やサービスの充実と向上を行いながら、施設も職員も成長してまいりました。行っているサービスとしては、入所サービスや短期入所サービス、通所リハビリテーションなどですね。ほかに居宅介護支援事業なども行っており、介護を必要とされる方やそのご家族のために、きめ細かなサービスをを行っています。新しく「関愛会」に加わったことで、さらに充実した介護ができる環境が整いました。

野口——ありがとうございます。看護師長の洲さんは開設当初からいらっしゃるんですよね、最初の頃の苦労話などありますか？

洲——私は看護師として入ってきたわけですが、それまでは医療現場の経験しかなくて、介護の世界はまったく初めてだったんですよ。ですから最初は、すごく戸惑いがありましたね。医療と介護って似ている部分もあるけれど、違う部分もとても多くて。これまでとは違う環境のなかで迷っているときに、介護職として現場で働く方から、介護の専門性についてたくさんのことを学びまし

社会医療法人 関愛会 介護老人保健施設やすらぎ苑 （写真左から）野口豊寿事務長、萱島涼子支援相談員、足立みちる施設長、洲由美子看護師長、石丸初美リハビリ主任



野口豊寿事務長 萱島涼子支援相談員 淵由美子看護師長 足立みちる施設長 石丸初美リハビリ主任

苑』の医療の質がすごく上がったと思います。(一同、うなずく)ターミナルケアで一番難しいのは時期ですね。ご家族にターミナルケアを始めための説明をする時期がとても難しい。職員が日々の体調や様子などを見守りながら情報を積み上げていって、先生が総合的な判断をなさる。その上で、ご家族に説明するんですけど、やっぱりデリケートな問題ですからね。

萱島——ですから、常日頃からのご家族の意向とか、そういうことをしっかりと聞いておくことが一番大事ですよ。

淵——間に合わなかったケースもたくさんあるので、タイミングがとても難しいんです。それでも、ターミナルケアをしっかりとやることによって「人生の最期を『やすらぎ苑』で穏やかに迎えられる良かったです」ってご家族に言葉をいただけるよね…。

石丸——そのひとことで、私たちも救われますよね。(一同、うなずく)

野口——この4月1日から、『やすらぎ苑』は関愛会の一員になりました。合併に向けた準備期間から考えると2年近くの時間がたっているわけですが、その間に何か変化などはありましたか？ 今後の抱負とあわせて、最後にひとことずつお願いします。

容は、利用者さまと施設の橋渡しというか、窓口ですね。『やすらぎ苑』でのサービスを希望される場合は、まず私たち相談員が利用者さまやご家族から健康状態や希望されるサービスについてお話を伺い、状況を確認させていただくことになります。そして情報を整理して、職員の皆さんに伝えるんです。利用者さまやご家族が最初に『やすらぎ苑』と接する場面にいるのが私たち相談員ですから、そういう意味では責任重大ですよ。ね。たぶん最初は、いろんな不安や疑問があると思います。ですから、まずはきちんとお話を聞いて、安心していただく。そして、信頼していただく。そんなことを心掛けています。

野口——ありがとうございます。私は、ゆったりとした穏やかな雰囲気がある『やすらぎ苑』の良さだと思っています。介護保険が始まる前からターミナルケア(終末期の医療や看護のこと)に取り組んできた当施設ですが、そこには、この穏やかな雰囲気というものが重要な役割を果たしているんじゃないでしょうか。以前は老健施設の集まる大会でターミナルケアの事例について発表したら「老健でターミナルケアとは何とかなんて言われましたけど、今は老健でもターミナルケアが当たり前になります。

足立——そうですね。これまでは具合が悪くなったときは開業医の先生に診ていただいていたので、入院施設がなかったんですよ。ですが「関愛会」は病院・医院・クリニックなどの施設が複合された社会医療法人ですから、さまざまな連携がとれるようになったことをうれしく思っています。当施設の利用者さまに、今まで以上に幅広い介護やサービスが提供できるのはもちろんですが、「関愛会」の一員として『やすらぎ苑』がどんな使命をもつてやっていくか、やっていけるか。地域包括医療を推進する仲間として、いろいろと考えていきたいと思っています。

淵——足立先生のお話の繰り返しになりますが、現場の人間としては『佐賀関病院』や『坂ノ市病院』など、病院との連携が構築できたことが大きいですね。これまでのように、具合が悪くなったとき、どこの病院にお願いしようかという判断に困らなくなりました。もちろん当施設でできる医療は行ないますが、重篤な容体になつてしまつと設備の整った医療機関でなければ対応できませんから。その連携がスムーズにいくことで、私たちもすごく安心しています。

石丸——今まで『やすらぎ苑』は単独

なつてきましたね。皆さんはターミナルケアを行うにあたって、ご苦労などはありませんでしたか？

足立——淵さんや石丸さんも話してましたが、やはり医療現場から来た人は、それまで勤務していた病院と介護現場との違いに戸惑いますよね。私もそうでした。私は内科が専門なんです。例えば発熱した人を病院で診る場合、最初に検査して発熱の原因を突き止める。そして、その原因に効く薬などの治療を行うんです。熱を下げる前に、まずは原因究明。ですけど介護の現場では、熱が出ているという現在の状態が、なにより高齢の利用者さまには大きな負担になるわけです。そして、なかなか原因の究明ができないことも多い。ですから原因を究明するより、少しでも早く利用者さまの苦痛を取り除いてあげること。介護の現場で求められるの施設だったわけですが、「関愛会」にはたくさん関連施設があつて、いろんな選択肢が増えてきたのかなと思っています。入所者さんの先々を見通した時に、例えば『佐賀関病院』なら、あそこのデイサービスに行つてとか病院に通つてとか、生活の見通しが立ちやすいです。また、「関愛会」の病院から『やすらぎ苑』に來られた方も、病院でやっていたりハビリをこちらで継続的に行うとか。設備だけでなくそういった情報などの共有も、やっていけるのかなと思います。

萱島——当たり前なんですけど、やっぱり利用者さまの満足が一番ですよ。そして、ご家族の安心感。今回「関愛会」という大きなグループに加わったわけですが、それについて喜ぶご家族の声も実際に耳にしています。「何かあつた時に『佐賀関病院』や『坂ノ市病院』にお願いできるのなら、家族としても安心です」と、当施設を選んだ理由を話してくださいました方もいらっしゃいました。そういった各施設との連携も含めて、利用者さま本位という目線を忘れず、地域の福祉や介護の拠点となれたらいいなと思います。

野口——「関愛会」に加わつたことで、施設やサービスが充実しただけ

は、この対症療法なんです。特にターミナルケアでは病気の治療よりも利用者さまのQOL(クオリティ・オブ・ライフ。生活の質のこと)を重視しますからね。

淵——最初のご苦労もあつたかと思いますが、内科が専門の足立先生に来ていただいたことで、『やすらぎ

苑』の医療の質がすごく上がったと思います。(一同、うなずく)ターミナルケアで一番難しいのは時期ですね。ご家族にターミナルケアを始めための説明をする時期がとても難しい。職員が日々の体調や様子などを見守りながら情報を積み上げていって、先生が総合的な判断をなさる。その上で、ご家族に説明するんですけど、やっぱりデリケートな問題ですからね。

萱島——ですから、常日頃からのご家族の意向とか、そういうことをしっかりと聞いておくことが一番大事ですよ。

淵——間に合わなかったケースもたくさんあるので、タイミングがとても難しいんです。それでも、ターミナルケアをしっかりとやることによって「人生の最期を『やすらぎ苑』で穏やかに迎えられる良かったです」ってご家族に言葉をいただけるよね…。

野口——そのひとことで、私たちも救われますよね。(一同、うなずく)

野口——この4月1日から、『やすらぎ苑』は関愛会の一員になりました。合併に向けた準備期間から考えると2年近くの時間がたっているわけですが、その間に何か変化などはありましたか？ 今後の抱負とあわせて、最後にひとことずつお願いします。

容は、利用者さまと施設の橋渡しというか、窓口ですね。『やすらぎ苑』でのサービスを希望される場合は、まず私たち相談員が利用者さまやご家族から健康状態や希望されるサービスについてお話を伺い、状況を確認させていただくことになります。そして情報を整理して、職員の皆さんに伝えるんです。利用者さまやご家族が最初に『やすらぎ苑』と接する場面にいるのが私たち相談員ですから、そういう意味では責任重大ですよ。ね。たぶん最初は、いろんな不安や疑問があると思います。ですから、まずはきちんとお話を聞いて、安心していただく。そして、信頼していただく。そんなことを心掛けています。

野口——ありがとうございます。私は、ゆったりとした穏やかな雰囲気がある『やすらぎ苑』の良さだと思っています。介護保険が始まる前からターミナルケア(終末期の医療や看護のこと)に取り組んできた当施設ですが、そこには、この穏やかな雰囲気というものが重要な役割を果たしているんじゃないでしょうか。以前は老健施設の集まる大会でターミナルケアの事例について発表したら「老健でターミナルケアとは何とかなんて言われましたけど、今は老健でもターミナルケアが当たり前になります。

足立——そうですね。これまでは具合が悪くなったときは開業医の先生に診ていただいていたので、入院施設がなかったんですよ。ですが「関愛会」は病院・医院・クリニックなどの施設が複合された社会医療法人ですから、さまざまな連携がとれるようになったことをうれしく思っています。当施設の利用者さまに、今まで以上に幅広い介護やサービスが提供できるのはもちろんですが、「関愛会」の一員として『やすらぎ苑』がどんな使命をもつてやっていくか、やっていけるか。地域包括医療を推進する仲間として、いろいろと考えていきたいと思っています。

淵——足立先生のお話の繰り返しになりますが、現場の人間としては『佐賀関病院』や『坂ノ市病院』など、病院との連携が構築できたことが大きいですね。これまでのように、具合が悪くなったとき、どこの病院にお願いしようかという判断に困らなくなりました。もちろん当施設でできる医療は行ないますが、重篤な容体になつてしまつと設備の整った医療機関でなければ対応できませんから。その連携がスムーズにいくことで、私たちもすごく安心しています。

石丸——今まで『やすらぎ苑』は単独





社会医療法人 関愛会

介護老人保健施設 やすらぎ苑

〒870-0125 大分市大字松岡字道ノ下1946
Tel. 097-520-3535

サービス: 介護老人保健施設(入所サービス)、短期入所療養介護(短期入所サービス)、通所リハビリテーション(デイケアサービス)

併設事業所: 指定居宅介護支援事業所
「在宅ケアサポートやすらぎ」

佐賀関の手押し車のルーツを訪ねて



佐賀関の手押し車。乳母車とかせり車、大五郎車と呼ぶ人もいます。

佐賀関のあちこちで目にする手押し車。漁具を載せたり、灯油缶を運んだり、子どもを乗せたりと漁師町の生活には欠かせない。昔は家具屋さんで買ったと聞くが、もう新車は手に入らない。この手押し車はいつたどこから来たのか。四国・徳島の乳母車屋さんから仕入れていたという話を聞き、徳島市にある『世又うば車店』を友人と訪ねた。

国道九四フエリーで海路四国入り。国道197号のメロディーラインを通り、たどり着いた乳母車店は創業110年を超える老舗だった。名前とはうらはらに、お店の一角はシルバーカーで占められ、時代の流れを感じた。



老舗の風格。在京テレビ局がドラマの撮影用にレトロな「乳母車」を買い求めたこともあるという。

していったという。プラチックくるま、プラぐるまと呼ばれる。愛媛街道を経て佐賀関にも販路ができた。持参した佐賀関の手押し車の写真を見せると「こんなにたくさん残っているとは！」と驚いていたご主人。今はもう部品工場はなくなり、プラぐるまの製造は終了している。四国には同じような手押し車が残って



奥に写っているのがご主人。「長い間、大切に使ってくれているんですね」。

いる地域もあるそうだが、今回は時間がなく訪問できなかった。翌日、香川県高松沖にある「男木島（おぎしま）」を訪ねてみた。坂道や狭い路地の多い漁師町では、佐賀関と同じように乳母（おんば）車と呼ばれる手押し車が活躍していた。



オーダーメイドの手押し車「オンバ」は瀬戸内国際芸術祭のプロジェクトから広がり始めた。



白木海岸のレストランのプリン
ときどき無性にプリンが食べたいことがある。コンビニスイーツとは一線を画した手作り感。スプーンを入れたときのなめらかさ。ほどよいボリューム感。『関あじ関さば館』1階でテイクアウトができる。1個200円。

関のカメラリー（せきあいギャラリー）

クラフトテープのかこバッグ



佐賀関にもあった「関ヴィトン」。県内の姫島村で作られる「姫島ヴィトン」なるかこバッグに負けないウオリティ。洋服にも和服にも合いそうです。新作が待ち遠しい。



佐賀関病院 松島 文子 医師

日本麻酔科学会、日本プライマリ・ケア連合学会所属。特技は絶対音感。最近では奄美大島の三味線の練習に励む

あなたが意外と知らない世界 しごと図鑑 vol.2

臨床検査技師

佐賀関病院 臨床検査室 臨床検査技師 松本 健吾



profile

平成28年入職。大分市出身。休日は仲間とフットサルで汗を流す。最近は山登りもハマってます。

臨床検査技師の仕事は、大きく分けて「検体検査」と「生理機能検査」があります。

検体検査では検査技師自身が「検体採取から結果説明まで」を目標に頑張っています。採血業務では患者さまから頂いた検体を正確に、そしてより早く検査結果としてお返ししたいという思いで取り組んでいます。今後はインフルエーザの検体をはじめ、真菌検体の採取にも取り組みたいです。

『ちょこっと健診』では、患者さまに検査結果を分かりやすく説明できるように努めています。



生理機能検査には心電図、A B I、呼吸機能検査などがあります。生理機能検査では、不安を抱える患者さまにリラックスしていただくように気を付けています。検査が終わ、「ありがと」、「お疲れさま」と声をかけられるとこの仕事にやりがいを感じます。たくさんの患者さまの笑顔から、私も元気をいただいています！

上：外来支援として採血業務も行っています。下：チーム医療にコミュニケーションは欠かせません。いつも笑顔で大切にしています。



関愛会関連施設をリレーで紹介

私もせきあい vol.2



左：小学校の面影が残る外観 右上：処置室には量が敷いてあります 右下：アットホームな雰囲気自慢です



地域の皆さんに
支えられている施設です

一尺屋診療所 医療事務 橋本 千景

地域のみなさんとのふれあいが元気の源です！



『一尺屋診療所』は、旧一尺屋小学校の校舎を利用した診療所です。現在診療をしている部屋は以前、小学校に併設された幼稚園があつた場所です。子どもたちが並んで手洗いをしていた手洗い場には今、診察に訪れた皆さんを和ませる胡蝶蘭などが飾られています。患者さまの大半は近隣に住む顔馴染みの方で、当時の面影が残る診療所内には訪れた皆さんの笑い声が絶えません。昔ながらの地域の光景と、あたたかな近所付き合いが残る一尺屋診療所を、これからも地域のコミュニケーションの場として、そして地域の皆さんの健康を守る場として、地域に貢献していきたいと思っています。



「忙しい」「時間がない」など、なかなか健康診断を受けられない方へ

“ちょこっと健診”のご案内

受付 月～金曜 9:00～16:00

健診の流れ

受付に**申込書と健診費用**をお持ちください
職員がご案内いたします

▶ **採血または採尿**

担当者より**結果のご説明**をいたします

※混雑の場合や健診項目により多少お待ちいただく場合がございます。ご了承ください。
※当日は健診の結果のみの説明で、医師の診察、投薬などはございません。

●500円健診メニュー

1項目あたり500円で受診できます

※検査当日、当院にて診察予定の方は
本健診を受けることができません。

血糖値が気になる方
(血糖、ヘモグロビンA1c)

肝臓が気になる方
(AST、ALT、γ-GTP)

コレステロールが気になる方
(総コレステロール、中性脂肪、HDLコレステロール、LDLコレステロール)

痛風が気になる方
(尿酸)

心電図

貧血が気になる方
(赤血球、白血球、ヘマトクリット、ヘモグロビン、血小板数)

おしっこが気になる方
(尿たんばく、尿糖、尿潜血、比重、pH、白血球、色調、混濁、ウロビリノーゲン、アセトン体)

●その他の健診メニューもあります

1,000円
動脈硬化の程度を数値化
(ABI)

1,200円
肺活量や肺気量などを調べる
(スパイロメーター)

1,400円
骨がもろくなっているかどうかを調べる
(骨密度)

〈お問合わせ〉 佐賀関病院 健診室 まで

素朴な
ギモンを
聞いてみた。

せきあい女子

地域を深掘る

～二堀目～

いつの時代か定かではないのですが、佐賀関が港として栄えていた頃、道を造るために徳応寺と現在の郵便局の間を掘り切ったそうです。現在の上浦港と下浦港はその土を使って築造されたそうなんです。この掘り切った峠の付近にお社があったといわれていて、ちょうどその場所にできた大分銀行さんに、守護神として今もお祀りしているというわけです。大分銀行は95の店舗・出張所がありますが、敷地の中にお社があるのは、本店と佐賀関支店だけなんです。

銀行の敷地内にお社がある理由が分かりました。大分銀行の中でも2カ所にしかない珍しいものなんです。佐賀関の町を散策するとまだまだ驚きが発見できそうです！



株式会社セキ士建
代表取締役社長 嵯峨雄二さん
設立70年になる、地元・佐賀関きつての老舗建設会社の社長で、大分銀行神社総代でもある方です。

A

大分銀行さんの守護神として、そして佐賀関の守り神としてお祀りしてらんです。



佐賀関病院
医事課 神野 由香
外来の受付業務、会計などを担当する医事課に所属

Q

大分銀行佐賀関支店の駐車場には、どうしてお社があるんですか？

診療所発、つれづれエッセイ

さよかわの風

第4回

聞こえてくる、子供らの声が……
診察室の窓越しに。そうなんです。診療所の隣にあった幼稚園が、ほぼ1年ぶりに新築され再開園したのだ。いいものだ、子供の元気な声が響き渡るの。

園児らの弾ける声や梅雨に入る 明寛

時折子供らの声に混じり聞こえてくるのは燕の鳴き声だ。チュチュルル……、風を切つて遠ざかる。燕は「土食つて虫食つて口洪い」と聞きなされているが、ウグイスの「法華経」やホオジロの「特許許可局」と比べると、燕の聞きなしはちょっと無理があるのではと感じる。

そんなある日、診療中に「聞こえない方がよい」との言葉が患者さんの口から出た。このフレーズは、高齢者の多い診療所では珍しくはない。理由は人間関係を難しくしたくないから。「我慢こそ美德」の精神である。自分さえ堪えておれば、毎日が穏やかに過ぎてゆく。それで良いのだという気持ちなのだろうと、私は思つて

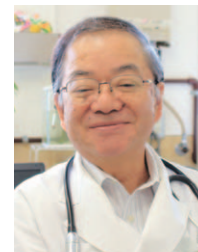
いる。
この日も患者さんの言葉に「そうですね」と肯定する私を押しつけて、もう一人の私が登場するのを止められなかった。

「耳は健康にとって、大事なんですよ」と言つてしまった。患者さんは怪訝そうな表情だった。私は以前学んだ心理学実験の話をした。学生を音楽の流れる暗闇の部屋と明るいの部屋と、どつという行動を取るかという実験だ。結果は、音のある暗闇で長時間耐えられた学生も、無音の部屋では1時間も耐えきれず飛び出したのだ。また、ある実験では無音の部屋にいと40〜50分で幻視が現れてきたという。これは人にとって、耳から情報が入ることは、精神的安寧にとっても大事だといつことを意味している。

さらに話を続けた。皆の嫌がる認知症にも、聴力障害を放つておくほうが悪い影響を与えることや、難聴高齢者を6年間研究した教授の報告では、難聴の程度が強い人ほど脳萎縮が強く、認知機能や精神的安定も

失われていたことなどを話した。そしてこう続けた、確かに人は、情報の70％は視覚から得ているので、視覚が大事なことは言つてもいい。聞こえていないことは聞こえていない。聞こえていない。波風立てずに穏やかに過ごしたい。その気持ちはよく分かるが、高齢者の関心の高い認知症予防に、聴覚、聞こえるといふことは、大変重要なことだと話した。患者さんは私の話を静かに聞いていた。もともとしっかりした方なので、ご理解いただけた表情だった。続いて、私が前回の検査結果を説明しようとする、患者さんが「眼も大切ですね、昔から『いちがんにそく』と言いますから……」と言った。私は聞いたことのない言葉に戸惑い、「えっ『いちがんにそく』？何ですかそれは」と尋ねた。患者さんは「へー、先生も知らないことがあるんですね」と言い、私たちにとって眼が第一で足が第二に大事なことだと教えてくれた。

「確かに眼も足も大事ですね」と、納得した私だったが、どんな字を書き、



清川診療所
坪山 明寛 医師

内科・血液内科。モットーは「一日一笑」、「医道人道」。俳句、写真撮影、童話創作、囲碁、植物いじりを愉しむ多趣味人

どのような意味を持つのかという疑問を感じた。後で「いちがんにそく」を調べるため、「大辞林」「ことわざ辞典」「格言集」「語源辞典」を漁つたが見つからなかった。そこでインターネットで調べてみると「一眼二足三胆四力」の熟語が出てきた。剣道修行の教えで、「第一に相手を見る目、第二に足さばき、第三に何事にも動じない強い気持ちや決断力、第四に技を発揮する身体能力が重要である」という意味を知り、なるほどと感心した。

診察室で患者さんの健康管理のお手伝いをしている私だが、逆に患者さんから何倍もの生きた知恵や知識を授かることが多い。

これからも清川町が育んだ豊かな老人力に負けないよう、自学自習を深めつつ患者さんと語り、そして問いかけ、診察室を学び舎として学んでいきたい。

診療所では、今年も3羽の燕の子が巣立つてゆき、空っぱの巣だけが残っている。

燕の子巣立ちてひとつ空き家かな 明寛

地域包括ケアを目指して 関愛会運営施設

社会医療法人 関愛会

〒879-2201 大分県大分市大字佐賀関750-88
Tel.097-575-1172



機能強化型在宅療養支援病院 佐賀関病院

〒879-2201 大分市大字佐賀関750-88
Tel.097-575-1172

診療科:内科・循環器科・呼吸器科・消化器科・小児科・整形外科・外科・肛門科・耳鼻咽喉科・眼科・リハビリテーション科
入院病床:89床(一般病床34床、回復期リハビリテーション病床42床、地域包括ケア病床13床)
■大分県へき地医療拠点病院 ■日本静脈経腸栄養学会NST移動施設認定病院
■大分DMAT指定医療機関



介護老人保健施設 やすらぎ苑

〒870-0125 大分市大字松岡字道ノ下1946
Tel.097-520-3535

短期入所療養介護・通所リハビリテーション・居宅介護支援事業



機能強化型在宅療養支援診療所 佐賀関診療所

〒879-2201 大分市大字佐賀関750-91
Tel.097-575-1173

診療科:内科・眼科・耳鼻科・歯科



機能強化型在宅療養支援診療所 こうざきクリニック

〒879-2111 大分市大字本神崎251-8
Tel.097-576-1782

診療科:内科
●こうざきデイケアリハビリテーションセンターもみの木
●こうざきクリニック訪問リハビリテーション事業所



機能強化型在宅療養支援診療所 王子クリニック

〒870-0009 大分市王子町1-11
Tel.097-536-6633

診療科:内科・消化器内科・心療内科



在宅療養支援診療所 三重東クリニック

〒879-7104 豊後大野市三重町小坂4109-61
Tel.0974-22-6333

診療科:内科・小児科



高齢者介護施設 ひまわり

〒879-2201 大分市大字佐賀関880-1
Tel.097-524-4141

●デイサービスひまわり
●ヘルパーステーションひまわり
●ケアセンターひまわり(居宅介護支援事業所)



介護老人保健施設 せきの郷

〒879-2203 大分市大字一尺屋2357
Tel.097-575-8800

●短期入所生活介護せきの郷
●通所リハビリテーション



移転 訪問看護ステーション いろは

〒870-0307 大分市坂ノ市中央3-14-33-1セルコ・セゾンA号室
Tel.097-535-7577



一尺屋診療所

〒879-2203 大分市大字一尺屋2368-1
Tel.097-575-8028

診療科:内科



機能強化型在宅療養支援病院 坂ノ市病院

〒870-0307 大分市坂ノ市中央1-269
Tel.097-574-7722

診療科:内科・小児科・消化器内科・呼吸器内科・リハビリテーション科 入院病床:20床
●在宅医療連携センター
●坂ノ市リハビリテーションセンターもみの木



機能強化型在宅療養支援診療所 津守クリニック

〒870-0945 大分市津守496-37
Tel.097-578-7762

診療科:内科



在宅療養支援診療所 清川診療所

〒879-6903 豊後大野市清川町砂田1877-3
Tel.0974-35-3561

診療科:内科・リハビリテーション科
●きよかわリハビリテーションセンターもみの木
●きよかわ介護サポートセンター三つ葉



有料老人ホーム 海風

〒879-2201 大分市大字佐賀関792-1
Tel.097-575-4800

●デイサービス海風



ひかり ナーシングホーム 輝

〒879-2111 大分市大字本神崎256-4
Tel.097-578-8133

甲原芳範前院長が 別大マラソンで好走

2月5日に行われた第66回「別府大分毎日マラソン大会」に、関愛会『こうざきクリニック』の甲原芳範前院長が出場しました。甲原前院長は47歳からランニングを始めて6年目ながら、フルマラソン3時間を切る“サブ3”を達成。「応援してくれた職員の皆さんのおかげで、目標を達成できました」と笑顔で語ってくれました。

※日本全国のランナーに占めるサブ3達成者は、わずか3%ほどだそうです！



活発な議論が交わされた 「S-LINK(地域包括ケア研修会)」

6月17日、第4回「S-LINK(地域包括ケア研修会)」が坂ノ市公民館で開催されました。大分大学福祉健康科学部の衣笠一茂教授を招き、「実践現場における“生活の視点”を考える」というテーマで講演いただいた後、生活の視点を今後の実践に生かすための取り組みについて参加者間で議論が交わされました。



「健康教室」に参加しませんか？

関愛会では地域の皆さまのために、5月と12月を除く毎月第3木曜に「健康教室」を開催しています。内容は調理実習やヘルスケアについての講義など各種あります。参加したい方は窓口までお問い合わせください。



19回目の開催となる 「関愛会 学術集会」

3月29日、第19回「関愛会 学術集会」が佐賀関市民センターで開催されました。今回は法人職員が対象で、職員230名が参加。6題の研究発表が行われました。職員一人ひとりが意欲を持って自己研鑽に取り組むことで、関愛会は地域に信頼される医療を実践します。



280名が参加！ 佐賀関病院杯 「グラウンド・ゴルフ大会」

5月16日、第3回「佐賀関病院杯 健康づくりグラウンド・ゴルフ大会」が開催され、280名もの方々にご参加いただきました。会場では当院看護師、放射線技師などによる健康相談も行われ、プレーしながら、こちらも賑わいを見せていました。



関愛会各施設に新入職員が入職

4月3日・4日、関愛会では新入職員研修を実施。マナーや接遇の講習、各施設への訪問などを行いました。「地域包括医療の推進」「地域貢献」「自己研鑽」の理念を胸に、医療人としての第一歩を踏み出した新入職員をよろしくお願いいたします。



ちょっと知りたい、ふたりの関係。

ナースのよこがお

第2回

一緒にがんばろうね。

一緒に支え合って
がんばりましょう!

同期の新人

病院全体の雰囲気が明るく、
先輩方も皆さん優しい佐賀関病院で、
患者さんの思いに寄り添った看護が
できるように心がけています。

大変なこともたくさんあるけど、
毎日充実していて楽しいです。
いつでも誰にでも親切で、
信頼される看護師を目指します。

佐賀関病院

ほり ななみ
堀 菜々美 看護師(左)
(平成29年4月入職)
工藤さんを一言で表すなら?
⇒明るい!

くどう さゆみ
工藤 彩弓 看護師(右)
(平成29年4月入職)
堀さんを一言で表すなら?
⇒真面目!!